

授業科目名	からだの構造と機能 I ～感覚・皮膚・呼吸・循環・血液～		担当教員名	宮原謙一郎（理学療法士） 外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)	
実施時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	<p>生命現象を営んでいる人間のからだの構造と機能の基本的な仕組みを理解する。また正常な生理現象を理解し、疾病などの異常な状態を理解するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① からだを構成するしくみを理解する。</p> <p>② 気体を取り込み、代謝産物を排出する呼吸器系の構造と機能について理解する。</p> <p>③ 生命活動を維持するために不可欠な物質の運搬に関与する循環器系の構造と機能について理解する。</p> <p>④ 生体内を流動し、恒常性の維持を図る体液・血液・リンパ液の機能を理解する。</p>				
到達目標	<p>① 日常生活とからだの構造・機能の関連を説明できる。</p> <p>② 外界からの防御機能としての皮膚・感覚器の役割を説明できる。</p> <p>③ 気体を取り込み、代謝産物を排出する呼吸器系の構造と機能について説明できる。</p> <p>④ 生命活動を維持するために不可欠な物質の運搬としての循環器系の構造と機能について説明できる。</p> <p>⑤ 体内を流動し、恒常性維持を図る体液・血液・リンパ液の機能について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			担当
1	細胞と組織	細胞			
2		人体を構成する4種の組織			
3	皮膚・感覚器系の構造と機能	視覚器 眼球の構造と機能、物を見る 視覚の変調 聴覚器 聴覚器の構造と機能 感覚・平衡をつかさどる内耳 聴覚・平衡感覚の神経調節			宮原
4		臭覚器 臭覚器の構造と機能 においを感じる 味覚器 舌の構造と機能 味を感じる			
5		皮膚 皮膚の構造と再生の仕組み 体熱産生と体温 感覚受容器を備えた皮膚 電磁波などによる影響 内臓感覚 内臓痛覚			
6	呼吸器系の構造と機能	呼吸器系の構造と機能 呼吸器系の役割 鼻と鼻腔 咽頭 喉頭 気管と主気管支 肺			外部講師
7		呼吸のプロセス 換気 外呼吸 ガスの運搬 内呼吸			
8		呼吸の調節 化学受容期と呼吸器系の受容器 呼吸中枢 呼吸調節の効果器である呼吸筋			
9		呼吸のさまざまな異常			
10	循環器系の構造と機能	心臓 心臓の構造 心臓の機能 血管と循環			外部講師
11		血管の形態 主な動脈 主要な静脈と門脈系 胎児循環 血管の機能			
12		心臓、血管の成長と老化			
13		リンパ系 リンパ管 リンパ リンパ節 胸管 リンパ性気管			
14	血液の機能	血液の機能と成分 血液とは 血液の働き 血液の成分 血球とその機能 赤血球 白血球 血小板と血液凝固および血栓の線溶 (繊維素溶解)			外部講師
15		血液型と輸血 A B O式血液型 R h式血液型 輸血に際しての交差適合試験 ヒト組織適合性白血球抗原 血液の発生			

16	評価（2時間）
授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%） 感覚器 30% 呼吸器 30% 循環器 30% 血液 10%
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名	からだの構造と機能Ⅱ ～消化・吸収・内分泌・生殖と発生～		担当教員名	高川 竜子 (医師)	
実施時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	<p>生命現状を営んでいる人間のからだの構造と機能の基本的な仕組みを理解する。また正常な生理現象を理解し、疾病などの異常な状態を理解するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 食物を摂取し、消化・吸収し排泄する消化器系の構造と機能について理解する。</p> <p>② 生理機能を活性化する物質であり、生殖・成長・生体恒常性の維持・ストレス時の体内機構の調節などの重要な働きを担っている内分泌の機能について理解する。</p> <p>③ からだを構成する基本的な単位である細胞と組織の構造と機能およびヒトの生殖について理解する。</p>				
到達目標	<p>① 食物を摂取し、消化・吸収し排泄する消化器系の構造と機能について説明できる。</p> <p>② 生理機能を活性化する物質であり、生殖・成長・生体恒常性の維持・ストレス時の体内機構の調節などの重要な働きを担っている内分泌の機能について説明できる。</p> <p>③ からだを構成する基本的な単位である細胞と組織の構造と機能およびヒトの生殖について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	消化・吸収系の機能と構造	食欲 食欲と接触行動 食欲の調節			
2		咀嚼 口腔の構造と機能 歯 咀嚼			
		嚥下 咽頭の構造と機能 食道の構造と機能 嚥下			
3		消化 胃の構造と機能 小腸の構造と機能 肝臓の構造と機能 胆嚢の構造と 膵臓の構造と機能			
4		吸収 糖質の消化と吸収 脂肪の消化と吸収 タンパク質の消化と吸収 吸収 ビタミンの吸収 水の吸収			
5		排泄 大腸の構造と機能 排便の機序 消化器系の成長と老化			
6	内分泌の機能	内分泌系 ホルモンの化学的性質と作用機序 脳にあるホルモン分泌管 視床下部 下垂体 松果体			
7		甲状腺 甲状腺ホルモン カルシトニン 上皮小体			
8		膵臓 膵島の働き 血糖の調節 糖尿病 副腎 副腎皮質 副腎髄質			
9		性腺 卵巣 精巣			
10		古典的内分泌器官以外のホルモン分泌器官 消化管 腎臓 胸腺 心臓 (ナトリウム利尿ペプチド・ファミリー) 脂肪 その他			
11		内分泌系の成長と老化			
12	生殖の発生と機能と構造	細胞の構造 遺伝子の構造と役割 遺伝子と染色体 性の決定 蛋白質の合成			
13		からだを構成する4種類の組織 上皮組織 支持組織 筋組織 神経組織			
14		女性生殖器 卵巣 管腔系の構造 女性生殖器の構造 性周期 妊娠と出産 乳腺 女性生殖器の成長と老化			
15		男性生殖器 男性生殖器の構造 男性の外生殖器の構造 男性の生殖機能 男性生殖器の成長と老化			
16	評価 (2時間)				
授業形態	講義				

評価方法	筆記試験 (100%)
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名	からだの構造と機能Ⅲ ～筋骨格・神経系、体液・免疫系～		担当教員名	酒井吉仁（理学療法士） 外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	<p>生命現象を営んでいる人間のからだの構造と機能の基本的な仕組みを理解する。また正常な生理現象を理解し、疾病などの異常な状態を理解するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 体を支えるしくみや動かす仕組みを理解する。  ② 情報を収集して判断し、伝達するしくみを理解する。  ③ 生体内を流動し、恒常性の維持を図る体液の機能を理解する。  ④ 心とからだの調和をはかり生体防御機構を高めるしくみについて理解する。</p>				
到達目標	<p>① からだをささえるしくみや動かす骨・筋肉の仕組みを説明できる。  ② 情報を収集して判断し伝達する神経の構造と機能を説明できる。  ③ 生体内を流動し恒常性維持を図る体液の機能を説明できる。  ④ 心とからだの調和をはかり生体防御機構を高めるしくみについて説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			担当
1	骨・筋系の構造と機能	骨と骨格 頭蓋、体幹、体肢の骨格			酒井
2		関節の構造と種類 骨格系の成長と老化			
3		筋の種類・機能 身体の運動と骨格筋、骨格筋の解剖生理、筋系の成長と老化			
4	神経系の構造と機能	神経の分類			外部講師
5		神経組織の構造と機能			
6		中枢神経系			
7					
8		末梢神経系			
9					
10	腎・尿路系の構造と機能	腎臓 腎臓の構造と機能 尿の成分 血液成分の調整			外部講師
11		尿管 膀胱 尿道 排尿の生理			
12		蓄尿の機構 排尿の機構 骨盤底筋群の役割 泌尿器系の成長と老化			
13	生体機能の統合性	獲得免疫系のしくみ 抗原特異性 自己寛容 免疫記憶 抗体の産生と働き 抗体の構造 抗体のクラスとクラススイッチ キラーT細胞による反応			外部講師
14		自然免疫系のしくみと獲得免疫系のとの関連 自然免疫系の攻撃のしくみ 自然免疫系から獲得免疫系への情報伝達 液性免疫と細胞性免疫			
15		免疫系と感染症 感染症の原因となる病原体の種類 ヘルパーT細胞の種類と感染症への対応 感染症へのかかりやすさ（免疫能力の強弱） アレルギーと自己免疫疾患 IgEが関与するアレルギー（I型アレルギー） IgEが関与しないアレルギー 自己免疫疾患の発症機序 自己免疫疾患の種類			
16	評価（2時間）				

授業形態	講義
評価方法	筆記試験 (100%) 骨・筋 20% 神経 40% 腎・泌尿 20% 免疫 20%
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名		代謝と栄養		担当教員名	外部講師(実務経験有) 外部講師(実務経験有)	
実施時期		1年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		<p>生体を構成する物質の構造・性質・代謝・機能を理解し、健康の維持増進・回復に必要な栄養としての食事について学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 有機化合物を中心として生体を構成している物質の生体内におけるさまざまな反応(代謝)とその役割について理解する。</p> <p>② 栄養素の定義と各栄養素の役割・エネルギー代謝について理解する。</p> <p>③ 生活の一部としての食文化、変化するライフステージの栄養を理解する。</p> <p>④ 遺伝の情報がどのようにして伝達されるのか理解し、遺伝的異常に基づく代謝の異常について理解する。</p>				
到達目標		<p>① 有機化合物を中心として生体を構成している物質の生体内におけるさまざまな反応(代謝)とその役割について説明できる。</p> <p>② 栄養素の定義と各栄養素の役割・エネルギー代謝について説明できる。</p> <p>③ 生活の一部としての食文化、変化するライフステージの栄養を説明できる。</p> <p>④ 遺伝の情報がどのようにして伝達されるのか理解し、遺伝的異常に基づく代謝の異常について説明できる。</p>				
回数	単元	授業内容				担当
1	生体を構成する物質	化学の基礎知識 細胞の構造と機能 代謝のあらまし 酵素に関する基礎知識 酵素反応と阻害剤 酵素の応用 ビタミンの種類と生理作用				外部講師
2		糖質 種類 構造と性質 消化吸収 グルコースの分解 糖新生 ペントースリン酸回路 グリコーゲンの代謝				
3		脂質 種類 構造と性質 消化吸収 脂質の分解 ケトン体の産生と利用 脂肪酸の生合成 コレステロールの生合成と利用 エイコサノイドの生合成				
4		タンパク質 種類 構造と性質 消化吸収 αケト酸を経由するアミノ酸の利用 アミノ酸からの各種化合物の生成 アミノ酸からの他のアミノ酸の合成				
5		水と無機質/血液と尿 水とは 無機質とは 血液の成分と働き 尿の生成				
6		ホルモンと生理活性物質 ホルモンとは ホルモンの種類と作用機序 内分泌疾患 サイトカイン				
7	生体内の物質代謝	核酸代謝/ポルフィリン代謝 核酸とは 核酸の合成と分解 ヌクレオチドの合成と分解 ポルフィリンとは ヘムの合成と分解 ビリルビンの代謝				
8		代謝の異常 骨粗鬆症 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風				
9	遺伝情報とその発現	遺伝情報 複製 転写 翻訳 DNAの損傷と修復				
10		先天性代謝異常				
11	栄養素の役割とエネルギー代謝	栄養素の種類とはたらき 糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル				
12		三大栄養素の消化と吸収 エネルギー代謝 食品のエネルギー・体内エネルギー				
13		エネルギー代謝の測定・エネルギー消費				

14	食事と食文化	人間の食事と食文化 日本人の食事摂取基準	
15	ライフステージと栄養	栄養状態の評価 ライフステージと栄養	
16		評価（2時間）	
授業形態		講義	
評価方法		筆記試験（100%）代謝 70% 栄養 30%	
テキスト		『系統看護学講座 専門基礎分野 生化学』 『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学』 医学書院	
参考図書		適宜紹介	



授業科目名	微生物学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	<p>病原微生物の分類や特性、生体に及ぼす影響について理解し、感染症の診断・治療の基礎、看護における感染予防について学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 人に感染を起こす病原微生物の特徴および感染防御機構の意義・機能について理解する。</p> <p>② 病原微生物による感染症の臨床症状・診断・治療について理解する。</p>				
到達目標	<p>① 人に感染を起こす病原微生物の特徴および感染防御機構の意義・機能について説明できる。</p> <p>② 病原微生物による感染症の臨床症状・診断・治療について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	微生物学総論	微生物学の基礎 微生物の性質 微生物と人間 微生物学の対象と目的			
2		細菌の性質 形態と特徴 培養環境と栄養 遺伝 分類 常在細菌叢			
3		真菌の性質 形態と特徴 真菌の増殖 栄養と培養 真菌の抵抗力 原虫の性質 特徴と基本構造 原虫の感染 ウイルスの性質 特徴 ウイルスの構造と各部分の機能			
4		感染とその防御 人間の生活と微生物 微生物感染の機構 微生物の伝播様式 細菌感染の機構 真菌感染の機構 ウイルス感染の機構			
5		感染に対する生体防御機構 自然免疫・獲得免疫・粘膜免疫のしくみ			
6		感染源・感染経路からみた感染症 経口感染 経気道感染 接触感染 経皮感染 母児感染 感染の予防 バイオハザードとバイオセーフティ 滅菌と消毒 ワクチンと予防接種			
7		感染症の診断 病原体を検出する方法 生体の反応から診断する方法 感染の治療 化学療法の基礎 各種の化学療法薬 その他の治療法			
8		感染症の現状と対策 感染症の変遷 感染症の現状と問題点・対策			
9	細菌学各論	病原細菌と細菌感染症 グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 グラム陰性好気性杆菌 グラム陰性通気性菌			
10		カンピロバクター属とヘリコバクター属 グラム陽性 抗酸菌と放線菌類 嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科			
11	原虫学・真菌学	深在性真菌症・深部皮膚真菌症・表在性真菌症をおこす真菌			
12		根足虫類 鞭毛虫類 孢子虫類			
13	ウイルス学	DNAウイルス RNAウイルス			
14					
15					

16	評価（2時間）
授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%）
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学』 医学書院
参考図書	『ナースング・グラフィカ 臨床微生物・医動物』 メディカ出版

授業科目名		病理学		担当教員名	外部講師(医師)	
実施時期		1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		<p>援助を必要とする人に対して最も適切な看護あるいは健康支援を行うために、「からだの構造と機能」で学習した知識と結びつけて疾病の成り立ちを学習する。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 病理学の役割を知り、看護における病理学の意義を理解する。</p> <p>② 細胞の損傷・修復・変性・壊死のメカニズムと遺伝情報の変異について理解しさらに遺伝子の異常による代謝障害について理解する。</p> <p>③ 先天異常・遺伝子異常などについて理解する。</p> <p>④ 循環器系について知り、局所性・全身性の循環障害について理解する。</p> <p>⑤ 生体防御反応としての炎症について理解する。</p> <p>⑥ エイジングにともなう障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。</p>				
到達目標		<p>① 病理学の役割を知るとともに、看護における病理学の意義を説明できる。</p> <p>② 細胞の損傷・修復・変性・壊死のメカニズムと遺伝情報の変異について理解しさらに遺伝子の異常による代謝障害について説明できる。</p> <p>③ 先天異常・遺伝子異常などについて説明できる。</p> <p>④ 循環器系について知り、局所性・全身性の循環障害について説明できる。</p> <p>⑤ 生体防御反応としての炎症について説明できる。</p> <p>⑥ 代謝障害のメカニズムを説明できる。</p> <p>⑦ 生体防御反応としての免疫について説明できる。</p> <p>⑧ 腫瘍の定義や腫瘍の発生病理について理解し、診断・治療について説明できる。</p> <p>⑨ エイジングにともなう障害の特徴および検査・治療・処置に説明できる。</p>				
回数	単元	授業内容				
1	看護における病理学の意義	看護と病理学 病気の成因 疾病の分類(先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍)				
2	先天異常	細胞の損傷・修復・変性・壊死				
3		遺伝子の変異と代謝障害				
4		老化				
5	循環障害	先天異常 遺伝子異常 染色体異常				
6		<p>循環器系の概要</p> <p>局所性の循環障害(充血、うっ血、虚血など)</p> <p>全身性の循環障害</p> <p>リンパの循環障害</p>				
7	炎症と免疫	炎症の原因・経過・創傷治癒・治療				
8		アレルギーと自己免疫疾患				
9		免疫 アレルギーと自己免疫疾患 移植と免疫				
10	代謝障害	脂質代謝障害				
11		タンパク質代謝障害 糖尿病 その他の代謝障害				
12	腫瘍	腫瘍の定義と分類 腫瘍の発生病理 悪性腫瘍の転移と進行度 腫瘍の診断と治療				
13		腫瘍の定義と分類 腫瘍の発生病理 悪性腫瘍の定義と進行度 腫瘍の診断と治療 老化と死				

14	高齢者の疾患	高齢者の疾患 認知症 精神・神経疾患 呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患
15		評価（2時間）
授業形態		講義
評価方法		筆記試験（100%）
テキスト		『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学』医学書院
参考図書		『ルービン病理学』西村書店

授業科目名		疾病治療論Ⅰ ～呼吸・循環～		担当教員名	外部講師 (医師)	外部講師 (医師)
実施時期		1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		呼吸・循環をセットで捉え、機能障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。 本授業を通して ① 呼吸機能障害が起こるメカニズムやその症状、検査・治療・処置について理解する。 ② 循環機能障害が起こるメカニズムやその症状、検査・治療・処置について理解する。				
到達目標		① 呼吸機能障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。 ② 循環機能障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。				
回数	単元	授 業 内 容				担当
1	呼吸機能の障害・治療・検査・処置	呼吸器の構造と機能とその異常 呼吸の異常 呼吸困難と呼吸不全 呼吸器系の防御機構の障害 咳嗽と喀痰 換気障害 ガスの拡散障害 肺循環の障害 呼吸調節の障害 腫瘍				外部講師
2		呼吸器感染症 間質性肺炎				
3		気道疾患 肺血栓塞栓症 呼吸不全 呼吸調節に関する疾患 肺腫瘍				
4		肺・肺血管の形成異常 胸膜・縦郭・横隔膜の疾患 肺移植 胸部外傷				
5		心臓のポンプ機能とその病態生理 心臓の構造と機能				
6		心臓の拍出機能の障害 冠動脈の異常、新筋収縮の機能障害、 心房と心臓の機能障害、心膜の障害、心不全				
7		血圧調整と末梢循環のしくみと病態生理 血圧と血圧調整 血圧と末梢循環の障害 ショック・高血圧				
8	循環機能の障害・治療・検査・処置	心臓の拍出機能の障害 (冠循環の異常・心筋収縮の指令異常・心房心室の機能異常・心膜の障害・心不全)				外部講師
9		虚血性心疾患 心不全 血圧異常				
10		不整脈 弁膜症 心膜炎				
11		心筋疾患 肺性心 先天性心疾患				
12		動脈系疾患 静脈系疾患 リンパ系疾患 代謝・内分泌				
13		評価(2時間)				
14		講義				
15		筆記試験 (100%) 呼吸機能障害 50% 循環機能障害 50%				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ呼吸器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ循環器』医学書院					
参考図書	適宜紹介					

授業科目名		疾病治療論Ⅱ ～皮膚・聴覚・運動・神経～		担当教員名	外部講師（医師）・外部講師（医師） 外部講師（医師）・外部講師（医師） 外部講師（医師）	
実施時期		2年	前期	単位 時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		皮膚感覚・運動・神経の機能障害および検査・処置・治療について理解する。 本授業を通して ① 感覚機能の障害の特徴・検査・治療・処置について理解する。 ② 皮膚の障害の特徴・検査・治療・処置について理解する。 ③ 運動機能の障害の特徴・検査・治療・処置について理解する。 ④ 神経による調節の障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。				
到達目標		① 感覚機能の障害の特徴・検査・治療・処置について説明できる。 ② 皮膚の障害の特徴・検査・治療・処置について説明できる。 ③ 運動機能の障害の特徴・検査・治療・処置について説明できる。 ④ 神経による調節の障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。				
回数	単元	授 業 内 容			担当	
1	視覚	視覚 視覚器の構造と機能 代表的眼疾患 全身疾患との関連			外部講師	
2						
3	聴・嗅覚	聴・嗅覚 耳疾患 鼻疾患 咽喉頭疾患 気道・食道疾患と音声・言語障害			外部講師	
4						
5	皮膚	皮膚 表在性皮膚疾患 真皮・皮下脂肪織および付属器の疾患			外部講師	
6		脈管系の皮膚疾患 物理・化学的皮膚疾患 腫瘍および色素異常症				
7		微生物・動物が関与する疾患				
8		内臓疾患に伴う皮膚病変				
9	運動	運動 先天性疾患 骨折 脱臼 捻挫および打撲 骨・関節の炎症性疾患			外部講師	
10		骨腫瘍 骨系統疾患 代謝性骨疾患 筋および腱の疾患 麻痺性疾患				
11		上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢および下肢帯の疾患				
12	脳・神経	神経 脳疾患 脊髄疾患			外部講師	
13						
14		末梢神経疾患 神経・筋疾患				
15		脳・神経系の感染症 中毒 てんかん				
16		評価（2時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（100%） 視覚（10%）聴覚（10%）皮膚（30%）運動（20%）脳・神経（30%）				
テキスト		『系統看護学講座 基礎分野 病態生理学』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経』医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名	疾病治療論Ⅲ ～摂食・消化・体液の調節～		担当教員名	外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)・外部講師(医師)	
実施時期	1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	<p>病因と病変の基本的な特徴をふまえ、既修の「からだの構造と機能」「病態生理学」と関連させ、それぞれの機能・器官の疾患について、その特徴・症状・検査・治療・処置について学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 摂食の障害の特徴および検査・治療・処置について理解できる。</p> <p>② 体液の調節の調節障害の特徴および検査・治療・処置について理解できる。</p>				
到達目標	<p>① 摂食の障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。</p> <p>② 体液の調節の調節障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			担当
1	摂食の障害と検査・処置	摂食・消化 歯の異常と疾患 歯周組織の疾患 口腔粘膜の疾患 口腔領域の嚢胞			外部講師
2		口腔領域の悪性腫瘍 口腔領域の先天異常および発育異常 顎関節の疾患 神経の疾患			
3	消化の障害と検査・治療・処置	消化吸収のしくみと病態生理 消化管の構造と機能 胃・腸管の障害 消化・吸収の障害 食道の疾患 胃・十二指腸疾患			外部講師
4					
5					
6		腸および腹部疾患 急性腹症 腹部外科			
7					
8		肝臓・胆嚢の機能とその障害 肝臓・胆嚢の疾患			
9					
10	膵臓の機能とその障害 膵臓の疾患			外部講師	
11	体液の調節 検査・調節障害と検査・治療・処置	腎臓病の病態 検査 透析療法 腎不全 慢性腎炎 ネフローゼ症候群 ①糖尿病性病変 ②尿路感染症 ③尿路の通過障害			
12					
13					
14					
15		尿路損傷および異物 尿路結石症 尿路腫瘍			
16	評価 (2時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験 (100%) 歯科・口腔 (10%) 食道・腸 (35%) 膵・肝 (20%) 体液・腎 (35%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器』 医学書院				

授業科目名	疾病治療論IV ～内分泌・生殖～		担当教員名	外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	内分泌・生殖機能障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。 本授業を通して ① 内分泌・代謝機能の障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。 ② 生殖機能の器官の障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。				
到達目標	① 内分泌・代謝機能の障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。 ② 生殖機能の器官の障害の特徴および検査・治療・処置について理説明できる。				
回数	単元	授業内容			担当
1	内分泌・代謝機能の障害と検査・治療・処置	内分泌・代謝のしくみと病態生理 内分泌のしくみと病態生理 ホルモン分泌のしくみ			外部講師
2		視床下部一下垂体のはたらきとその異常 甲状腺、副甲状腺のはたらきとその異常 副腎皮質、副腎髄質のはたらきとその異常			
3		視床下部一下垂体前葉系疾患 視床下部 一下垂体後葉系疾患			
4		甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患 膝・消化管神経内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍			
5					
6		糖代謝とその異常 糖代謝のしくみ 糖尿病 高脂血症			
7					
8		脂質代謝とその異常 肥満症 メタボリックシンドローム			
9		尿酸代謝とその異常 尿酸代謝障害			
10	男性生殖器機能の障害と検査・治療・処置	男性生殖器の機能とその異常 尿路・性器の腫瘍 発生・発育の異常			外部講師
11		男性不妊症・男性性機能障害 その他の男性生殖器疾患			
12	女性生殖器機能の障害と検査・治療・処置	女性生殖器の機能とその異常 外陰の疾患 膣の疾患 子宮の疾患 卵管の疾患			外部講師
13					
14		卵巣の疾患 乳房の疾患 月経異常 月経随伴症状			
15		更年期障害 不妊症 不育症 感染症			
16	評価 (2時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験 (100%) 内分泌・代謝 (60%) 男性生殖器 (10%) 女性生殖器 (30%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器』 医学書院				
参考図書	適宜紹介				



授業科目名		疾病治療論V ～造血・免疫・感染症～		担当教員名	外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)	
実施時期		1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		病因と病変の基本的な特徴をふまえ、既修の「からだの構造と機能」「病態生理学」と関連させ、それぞれの機能・器官の疾患について、その特徴・症状・検査・治療・処置について学ぶ。 本授業を通して ① 造血にかかわる諸機能の障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。 ② 免疫機能の障害の特徴および検査・治療・処置について理解する。				
到達目標		① 造血にかかわる諸機能の障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。 ② 免疫機能の障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。 ③ 感染による健康障害の特徴および検査・治療・処置について説明できる。				
回数	単元	授業内容				担当
1	造血に関わる諸機能の異常と 検査・治療・処置	骨髄の機能とその障害				外部講師
2		赤血球の機能とその障害 白血球の機能とその障害 血小板と出血傾向				
3		造血器 造血のしくみ 検査 赤血球系の異常				
4		輸血療法 白血球系の異常				
5		造血器腫瘍 出血性疾患				
6	免疫機能の異常と 検査・治療・処置	免疫のしくみ 免疫反応 自己寛容と自己免疫のしくみ				外部講師
7		免疫機能の低下 免疫不全 B細胞の機能低下 T細胞の機能低下 食細胞の機能低下				
8		免疫反応の過剰 アレルギー反応による障害 自己免疫疾患				
9		アレルギー疾患				
10		膠原病 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス 全身性強皮症 多発性筋炎・皮膚筋炎 シェーグレン症候群 ベーチェット病 血管炎症候群 など				
11	感染による健康障害と 検査・治療・処置	感染症とは 症状と病態生理 検査と治療				外部講師
12		菌血症および敗血症				
13		消化器系感染症および腹腔内感染症				
14		骨盤内感染症 皮膚・皮下組織感染症 骨・関節感染症				
15		尿路感染症 特殊な感染症 輸入感染症 動物および昆虫を介する感染症 その他の感染症				
16	評価(2時間)					
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験(100%) 血液・造血器・免疫(60%) ・感染症(40%)				
テキスト		『系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症』医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目		栄養食事療法		担当教員名	外部講師（管理栄養士） 外部講師（管理栄養士） 外部講師（看護師）
実施時期		2年	後期	単位・時間	1単位 30時間
授業の概要と目的		人間にとっての食事を理解するとともに、健康を維持・増進するために、また健康を回復するために、いかに栄養と関わっていくかを学ぶ。経口摂取困難な対象のための経管栄養・経静脈栄養の実際を学ぶ。 本授業を通して ① 人間が生きていくために必要な食事の意義を理解する。 ② 各病態に応じた食事療法を理解する。 ③ 経口摂取以外の栄養方法を理解する。 ④ 栄養サポートチーム(NST)の活動を理解する。			
到達目標		① 健康レベルに応じた食事を知り、自己管理方法について説明できる。 ② 経管栄養・経静脈栄養のしくみや対象者を説明できる。 ③ 栄養サポートチーム(NST)の活動を知り、看護師の役割を説明できる。			
回数	単元	授業内容			担当
1	食事と栄養状態の評価・食事療法	食事の目的 食事療法の目的 栄養と疾病との関係 栄養素とその機能			外部講師
2		栄養状態の評価、栄養評価の実際 入院患者の栄養状態・食事療法の評価			
3		病院食の基本・種類 献立作成 特別食 特殊栄養各種病態と食事療法の基本方針			
4	病態と食事療法	各種病態と食事療法の基本方針			外部講師
5		消化器疾患			
6		循環器疾患			
7		腎疾患			
8		代謝疾患 手術前後 他			
9	摂食嚥下障害時の看護	嚥下障害			外部講師
10		経管栄養・胃瘻の目的・管理方法			
11		経静脈栄養の目的・対象・管理方法			
12		栄養サポートチーム(NST)の活動 看護師の役割			
13					
14	食事療法の自己管理	地域における食事指導			外部講師
15		食事療法の自己管理			
16		評価（2時間）			
授業形態		講義			
評価方法		筆記試験（100％）食事療法 50％ 嚥下障害・経管・経腸栄養 40％ 地域食事療法 10％			
テキスト		『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学』医学書院 『系統看護学講座 別館 栄養食事療法』医学書院 『糖尿病患者のための食品交換表』第7版 文光堂			
参考図書		『看護栄養学』医歯薬出版			

授業科目名	リハビリテーション論		担当教員名	外部講師 (医師) 酒井 吉仁 (理学療法士) 外部講師 (作業療法士) 外部講師 (言語聴覚士) 外部講師 (看護師) 外部講師 (看護師)	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	リハビリテーションにおけるそれぞれの目的・特徴・適応について学ぶ。 本授業を通して ① 後天的な機能障害をきたした人の生活を再構築するための活動内容を理解する。				
到達目標	① 理学療法、作業療法、言語療法の目的、特徴、適応について説明できる。 ② リハビリテーション看護の考え方や看護活動について説明できる。				
回数	単元	授業内容			担当
1	リハビリテーションとは	リハビリテーション概論			外部講師
2					
3	理学療法	理学療法とは:総論・分類・内容			酒井
4		各論:評価と治療:運動療法・物理療法			
5		基本動作指導・基本動作指導の実態(演習)			
6	作業療法	作業療法の目的と対象 作業療法的手段・治療			外部講師
7		作業療法の実際 精神障害 身体障害 発達障害 老年期障害			
8					
9	言語療法	言語療法の目的、種類、実際 失語症 構音障害			外部講師
10		摂食嚥下障害とその対応(演習含)			
11	リハビリテーション看護	リハビリテーション期看護の歴史と概念 リハビリテーションにおける倫理と法的問題			外部講師
12		経過別リハビリテーション看護 急性期/回復期/維持期/急性期から維持期リハビリテーションへの継続的な援助のための調整			
13		ADLの再獲得を支援する看護援助 障害を負った人の心を支える看護援助			外部講師
14		生活の再構築を支える社会資源の活用			
15		ノーマライゼーションの思想 リハビリテーションを必要とする人の特徴と理解			
16	評価(2時間)				
授業形態	講義 演習				
評価方法	筆記試験(100%) 概論 10% 理学療法 20% 作業療法 20% 言語療法 10% リハビリテーション看護 ADL 再獲得・ノーマライゼーション 40%				
テキスト	『系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護』医学書院				
参考図書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経疾患患者の看護』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉疾患患者』医学書院 『ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学』メディカ出版				

授業科目名	診断治療論		担当教員名	外部講師(医師)・外部講師(医師) 外部講師(医師)・外部講師(医師)	
実施時期	1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	治療の概説を理解し、各分野に共通な治療方法についてそれぞれの目的・種類・特徴・適応について学ぶ。画像診断の概要を学ぶ。 本授業を通して ① 診断・治療に必要な基礎的な知識を理解する。				
到達目標	① 治療とは何かを説明できる。 ② 各治療法の目的・種類・特徴・適応について説明できる。 ③ 画像診断について説明できる。				
回数	単元	授業内容			担当
1	概治療論	健康・病気・医学の体系 病因・診断			外部講師
2	手術療法	手術療法の目的と意義 麻酔の知識			
3		手術室の管理、術前・術後・合併症の管理			
4		外科的侵襲と生体反応、炎症と外科的感染症			
5	救急医療	救急医療とは、救急患者の特性、救急医療品			外部講師
6		心肺蘇生法 一次救命処置 二次救命処置			
7		全身状態の安定のため管理 体液・輸液の管理 止血 創処置			
8		特殊な状態と管理 熱傷 溺水 中毒 脳死と臓器移植			
9	ペインクリニック	ペインコントロールの方法 使用薬品 適応患者			外部講師
10		緩和ケア			
11	和漢診療	生薬と漢方薬について			外部講師
12		和漢診療学の意義と診断・治療			
13	放射線療法	放射線とは 放射線療法の目的・種類・特徴			外部講師
14		放射線療法の適応と進め方、放射線障害			
15		画像診断の種類と適応			
16	評価（2時間）				
授業形態	講義				

評価方法	筆記試験（100%） 治療概論・手術療法・救急医療・ペインクリニック（70%） 和漢診療（10%）放射線療法（20%）
テキスト	『系統看護学100%講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院 『系統看護学講座 別巻 救急看護学』 医学書院 『系統看護学講座 別巻 医学概論』 医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学』 医学書院
参考書	寺澤捷年著『絵でみる和漢診療学』 医学書院

授業科目	臨床薬理学 I		担当教員名	外部講師 (薬剤師)	
実施時期	1年	後期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	<p>薬物が生体に及ぼす影響と薬物作用について学ぶ。  臨床で用いられる薬物の薬理作用と有害作用、その薬物の適応と投与方法を学ぶ。  地域における薬剤師の役割を学ぶ。  本授業を通して</p> <p>① 薬の定義と薬物療法の基本を理解する。  ② 地域におけるかかりつけ薬局の機能を理解する。</p>				
到達目標	<p>① 薬物の薬理作用、薬物動態について説明できる。  ② 薬剤師の活動の実際を学び、連携について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	薬理学総論	薬理学の歴史と医薬品の概要について			
2		薬による病気の治療 薬物の使用目的と看護師の役割について			
3		薬の作用機序について			
4		薬の体内の挙動 薬の種類、投与経路、吸収と分解			
5		薬物の代謝と排泄 治療において重要となる薬物動態の指標			
6		薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子			
7		薬物使用の有益性と危険性 薬と法律			
8		かかりつけ薬局の活動 内服指導 おくすり手帳			
9	評価 (1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験 (100%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名		臨床薬理学Ⅱ		担当教員名	外部講師（薬剤師）	
実施時期		1年	後期	単位・時間数	1単位	30時間
授業の概要と目的		各疾患に用いられる薬物の適応方法・作用・副作用・効果判定について学ぶ。 本授業を通して ① 身体各部および機能への薬物の作用機序、副作用を理解する。				
到達目標		① 疾患に用いられる薬物の薬理作用を説明できる。 ② 血液製剤の使用方法を説明できる。 ③ 感染予防のための消毒薬の必要性を説明できる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	からだの機能の異常と薬	末梢の神経活動に作用する薬物				
2						
3		中枢神経系に作用する薬物				
4						
5		抗アレルギー薬・抗炎症薬 皮膚科用薬用薬				
6		心臓・血管系に作用する薬物				
7						
8		呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物				
9		物質代謝に作用する薬物				
10		抗感染症				
11		抗がん薬 麻薬性鎮痛薬				
12		免疫治療薬				
13		漢方薬				
14		救急の際に使用される薬物				
15		消毒薬 輸液剤・輸血剤 輸液製剤				
16		評価（2時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（100%）				
テキスト		『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名	医療社会学		担当教員名	外部講師 (医師)	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	医療と看護の原点を理解し、医療・医療観の変遷および現代の医療とその課題を学ぶ。 本授業を通して ①社会のニーズと共に変化する医療について理解する。 ②地域生活と医療の関連性を理解する。				
到達目標	①医療・医療観の変遷について説明できる。 ②現代の医療とその課題について説明できる。				
回数	単元	授 業 内 容			
1	医療・医療観の変遷	医療と看護の原点			
2		医療の歩みと医療観の変遷			
3		生活と健康と医療			
4	現代医療とその課題	科学技術の進歩と健康・生命をめぐる新たな課題			
5		成熟する社会と人々の意識改革 インフォームド・コンセントと医療情報の開示			
6		地域包括ケアシステムと医療			
7		医療経済・医療分配			
8	評価 (1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験 (100%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論』医学書院				
参考図書	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』医学書院				



授業科目名	公衆衛生学		担当教員名	外部講師 (医師) 外部講師 (医師)	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	<p>公衆衛生の概念を理解し、地域社会に生活する人々の健康の保持増進を図るために、人の健康と環境の関わりについて学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 公衆衛生の地域生活における必要性を理解する。</p> <p>② 地域社会に生活する人々の健康の保持増進を図るための活動を理解する。</p>				
到達目標	<p>① 公衆衛生とその活動について説明できる。</p> <p>② 健康と環境との関連について説明できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			担当
1	公衆衛生	公衆衛生の概念としくみ			外部講師
2		疫学と健康指標			
3		公衆衛生に関する政策と実践評価			
4		公衆衛生と国際化			
5	環境保健	環境保健の概念としくみ			外部講師
6		災害保健			
7		感染症対策			
8		産業保健			
9	評価(1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験 (100%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』医学書院				
参考図書	『国民衛生の動向』厚生統計協会 『新体系看護学 公衆衛生学』メヂカルフレンド社				

授業科目名	地域保健		担当教員名	外部講師(保健師) 外部講師(看護師・養護教諭I種) 外部講師(保健師) 外部講師(保健師)	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	地域社会に生活する人々の健康の保持増進を図るための保健活動を学ぶ。 本授業を通して ① 地域保健活動のしくみと内容について理解する。				
到達目標	① 地域保健のしくみを説明できる。 ② 地域保健の実際を知り、看護職の役割について説明できる。				
回数	単元	授業内容			担当
1	地域保健	地域保健の特性			外部講師
2	母子保健	母子保健			
3	成人高齢者保健	成人・高齢者保健			
4					
5	精神保健	精神保健			外部講師
6	難病保健	難病保健			外部講師
7	学校保健	学校保健			外部講師
8					
9	評価(1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験(100%) 地域保健・母子保健・成人高齢者保健(50%) 精神保健(15%) 難病保健(15%) 学校保健(20%)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』医学書院				
参考図書	『国民衛生の動向』厚生統計協会 『新体系看護学 公衆衛生学』メヂカルフレンド社				

授業科目	社会福祉		担当教員名	外部講師（社会福祉士）	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	社会福祉の概念と具体的な制度について学ぶ。 本授業を通して ① 社会福祉に対する認識を深めるとともに、社会福祉の内容を理解する。 ② 医療および看護との連携の必要性を理解する。				
到達目標	① 社会福祉の概念や役割を説明できる。 ② 各ライフステージにおける社会福祉を説明できる。 ③ 生活保護の概念と実際の支援内容を説明できる。				
回数	単元	授業内容			
1	社会福祉の概念・実践法	社会福祉の概念・役割			
2		社会福祉の実践方法			
3	ライフステージと福祉	ライフステージと福祉：子ども・家庭			
4		ライフステージと福祉：高齢者			
5	障害者と福祉	障害者と福祉 地域福祉			
6	生活保護における社会保障	生活保護における生活保障			
7					
8		評価（1時間）			
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験（100%）				
テキスト	『ナーシング・グラフィカ9 社会福祉と社会保障』メディカ出版				
参考図書	『社会福祉用語辞典』				

授業科目名	社会保障		担当教員名	外部講師(社会福祉士)	
実施時期	2年	後期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	社会保障の理念と具体的な制度について学ぶ。 本授業を通して ① 社会保障に対する認識を深めるとともに、社会保障制度の内容を理解する。 ② 医療および看護との連携の必要性を理解する。				
到達目標	① 社会保険制度のしくみを説明できる。 ② 具体事例から社会保障制度の内容を説明できる。				
回数	単元	授業内容			
1	社会保障制度とは	社会保障制度とは何か 社会保障の歴史			
2	公的年金制度	公的年金制度の意義と体系			
3	医療保険制度	医療保険制度の意義と体系			
4					
5	介護保険制度	介護保険制度のしくみ			
6					
7	雇用保険制度	雇用保険制度のしくみ			
8	評価(1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験(100%)				
テキスト	『ナーシング・グラフィカ9 社会福祉と社会保障』メディカ出版				
参考図書	『社会福祉用語辞典』				

授業科目名		健康と法律		担当教員名	外部講師(実務経験有)	
実施時期		3年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		保健師助産師看護師法を中心とした福祉・医療・看護に関する法律を学ぶ。 本授業を通して ① 看護師の法的責任および患者の権利を理解する。				
到達目標		① 保健師助産師看護師法を中心とした福祉・医療・看護に関連する法の概要について説明できる。 ② 医療従事者の法的責任を説明できる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	法とは	法とは 法の種類 成文法と不文法 公法と私法 実体法と手続法				
2	患者の権利	患者の権利とインフォームドコンセント				
3	個人情報保護法	個人情報保護法				
4	医療過誤	医療事故 医療過誤 医療過誤の法的責任・道徳的責任				
5	衛生法	衛生法の意義 衛生法の沿革 衛生法の分類 厚生行政のしくみ				
6	労働法	労働法 育児休業 介護休業 育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律				
7	保健師助産師看護師法	保健師助産師看護師法の沿革・構造・附属法令				
8		保健師助産師看護師法の目的・定義・免許				
9		保健師助産師看護師法の業務 看護業務の基本的な考え方 「療養上の世話」「診療の補助」の意味と医師の指示との関係				
10		演習				
11		事例にみる看護師の注意義務と責任				
12	法律 進に関する 材確保の促 看護師等人	看護師等人材確保の促進に関する法律				
13	法等 医師	医師法等関係資格法				
14	医療法等	医療法 (1)				
15		医療法 (2) 臓器の移植に関する法律、死体解剖保存法				
16		評価 (2時間)				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験 (100%)				
テキスト		『ナースング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度』メディカ出版				

参考図書	田村やよひ著『私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法』日本看護協会出版会 深谷翼『判例に学ぶ看護事故の法的責任』日本看護協会出版会 加藤済仁編著『看護師の注意義務と責任』新日本法規
------	--